

ZENBUTSU

全仏



No.
501

仏暦2547年 9月
[2004年]



CONTENTS

報告———鳥取県知事をパネラーに

宗教法人の情報開示に関するシンポジウム開催される

比叡山宗教サミット17周年「世界平和祈りの集い」

第28回全国仏教保育滋賀大会

第25回日韓仏教文化交流光明寺大会

同和推進担当者研修会 テーマ「花岡事件」

事務総局録事



財団法人 **全日本仏教会**

Japan Buddhist Federation

世界仏教徒連盟(WFB)日本センター
Japan Regional Center of World Fellowship of Buddhists

シンポジウム実行委員会主催

鳥取県知事をパネラーに、宗教法人の情報開示に関するシンポジウムが開催される

鳥取県における宗教法人の情報開示問題に関し、シンポジウム実行委員会主催、鳥取県仏教連合会の協賛によるシンポジウムが七月二十六日、鳥取県のホテルセントパレス倉吉を会場に開催された。

宗教関係者をはじめ、文化庁宗務課、鳥取県議会、報道関係者、一般を含め、会場一杯の百五十余名の参加で、この問題への関心の高さが顕れていた。本会から櫻井英幸総務部長と長谷川正浩顧問弁護士が参加した。

正田哲寿鳥取県仏教連合会会長による開会挨拶の後、第一部として二名の講師による講演が行われた。

初めに、瀧山親則鳥取県総務部長より「地方分権とは自分たちのことは自分たちで決めてやっていくということである。従って鳥取県においては、県の情報公開条例に従い、原則すべての情報を公開している。ただし、プライバシーを侵すものや、団体に危機を及ぼすものは非公開としている。国と県市町村とは対等の立場であり、信教の

自由に反するものは非公開とし、宗教法人法を遵守しながら開示している」との説明がなされた。

続いて洗建駒澤大学教授より「そもそも情報公開とは、税金の使途や行政が正しく実行されているかの公開が主目的であり、民間の情報開示が主目的ではない。宗教法人が主体的に情報公開していくことは大切なことだが、今のように宗教法人の内部情報が役所に提出され、何も関係ない人々に公開されることは、行政の不当関与であり、信教の自由を侵すこととなる。書類提出を拒否し、宗教法人法の再改正にむけ行動していくことが大切と思う」との所見が述べられた。

引き続き第二部として、田中滋龍谷大学教授をコーディネーターに、六名のパネリストによるパネルディスカッションが行われた。

宮城泰年京都仏教会常務理事からは「宗教法人に対する行政の内部干渉が各地で種々起きている。今回の情報開示もその一例といえる。書類非提出を

貫き、宗教法人法の再改正を強く要求していくべきだ」との意見が述べられた。さらに宇野稔日本基督教団東中国教区総会議長からも「行政の宗教法人への介入が宗教活動を後退させてしまっている。宗教法人法を元にもどすことが必要と思う」との同意見があった。

中村見自曹洞宗宗議会議員からは「情報公開に関し、国と県の方針が違うことや、宗教法人のプライバシー情報が開示されることに納得がいかないし、何の為に開示するのか意味がわからない。宗教法人法の改正が間違っていたとしか思えない」との意見が出された。

それに対し、島藺進東京大学教授は「宗教法人に対する世間の見方が厳しいことも念頭に置くと、宗教法人へのある程度の行政関与は必要であると思う。しかし、現在のように大教団でなく小さな宗教法人に行政の圧力がかけたり情報開示による迷惑が及んでいくことはおかしい状況と言える。宗教法人法の再改正はとても難しいと思うので、今後は国や行政に対し、意見や要請を出していくことが必要であると思う」との見解が述べられた。

そして、片山善博鳥取県知事より「大変ご迷惑をおかけして申し訳なく思う。しかし、情報公開による透明性の徹底が自分の基本方針である。現在、国の透明性や健全性は全くなっていない。

県の財政や行政を明らかにすると共に、提出された情報を共有することを目標に県の公開条例に従い開示している。

プライバシーへの配慮や、信教の自由を侵すことのないよう注意をしているが、間違いがあればどの部分の開示がまずいのか、具体的に御意見を出していただきたい。再検討もするし、公開条例を手直ししていくことも可能である。文化庁よりの通達は意味がなく、従ってはいない。また、宗教法人からの毎年の書類提出が本場に必要なのかどうか大きな問題であると思う」との意見表明がなされた。

今回のシンポジウムは、問題の本質を理解する上で、異なる立場から意見交換がなされ、問題解決への大きな前進であると共に、今後の更なる対話と調整の機会が必要となるであろう。最後に山本暢春シンポジウム実行委員会委員長の挨拶をもって閉会となった。

全日本仏教会としては、日本宗教連盟と連帯し、文化庁と意見交換していくと共に、宗教法人のプライバシーと信教の自由について研究を重ねていく予定である。国（文化庁）と鳥取県の方針や意見の違いが根本の問題である。さらに、鳥取県に対しても県の情報公開に対する姿勢や条例に不適切な部分があれば具体的に指摘し、意見を述べていきたい。

比叡山宗教サミット十七周年 世界平和祈りの集い



右より里見達人本会理事長、山本孝圓天台眞盛宗管長（本会副会長）、桶屋良祐念法眞教教務総長

八月四日、比叡山延暦寺一隅を照らす会館広場を会場に恒例の比叡山宗教サミット「世界平和祈りの集い」が開催され、十七周年を迎えた。本会からは里見達人理事長、山本観晃社会部次長が出席した。今年も、台風の影響で例年になく涼しい気候の中での開催となり、会場には七百名が集った。

式典では、はじめに西郊良光天台宗宗務総長が開式の辞を述べ、続いて「天台青少年比叡山の集い」で登壇している全国の中学生百七十名が次々と登壇し、舞台中央の万国旗を左右に掲げて世界平和を祈った。

延暦寺僧侶による法楽に続いて、渡邊恵進天台座主がイラクやパレスチナでの紛争を憂い「世界の平和と全人類の幸福を願う私たち宗教者は、地上の六十億の全ての人たちが、お互いに助け合い喜びあえる日が到来するまで、宗教の教義の垣根を越えて祈り、力を合わせて行動を起こさねばなりません」と述べた。

続いて、各代表十五名が登壇し、会場の参加者全員も起立して梵鐘の音を合図に黙禱して平和の祈りを捧げた。法相宗管長で本会副会長の安田映胤師が「平和を語る」の中で、「自分の所属する宗教や宗派の布教のみならず、世界平和に向けての宗教間の対話が必要であるとともに、お互いの宗教を理解すれば、対立がなくなり友情が生まれます」と語った。さらに、ローマ教皇庁諸宗教対話評議会と中国仏教教会からのメッセージが披露され、最後に森定慈芳延暦寺執行が、平和への道程の厳しさを説くと共に、参加者に日々の精進を呼び掛けた。

第二十八回全国仏教保育滋賀大会 仏教保育の原点に視点を当てて



式辞を述べる成田有恒大会会長

七月三十・三十一日の両日、(社)日本仏教保育協会主催の第二十八回全国仏教保育滋賀大会が米原の滋賀県立文化産業交流会館を主会場に開催された。

今大会のテーマは「水」それは「いのち」―自然との共生に羽ばたいたく次世代の育成―。仏教保育の原点に視点を当ててと題し、全国の仏教保育の現場の方々約五百名が参加した。

開会式では、声楽家の花月真師(浄土真宗本願寺派)と同派の混声合唱団による三帰依文、仏讃歌を用いた

音楽法要が営まれ、地元の園児や参加者代表、来賓が舞台上で献灯・献花を行った。続いて成田有恒大会会長(本会副会長)の式辞、上村映雄大会委員長が挨拶し、静永進瑞実行委員会委員長が歓迎の言葉を述べた。

次に、大会宣言が採択され、「保育の低年齢化、長時間化、子育ての外注化、あるいは幼児虐待の傾向に對し施設としての仏教保育はどうあるべきか、慈悲と智慧の仏教の心を保育の心とし、全力をつくす」と宣言した。

記念講演では、山折哲雄氏(宗教学者)が「恐ろしい童子、優しい童子」と題し講演。その後、アトラクションとして狂言師・木村正雄氏が能狂言「琵琶の湖」を舞った。その後、会場を長浜ロイヤルホテルに移し、懇親会が催された。

翌日、参加者は「仏教保育は何をめざすか」、「子育てネットワーク・地域との関わり」など、十三の分科会に分かれ研鑽を積み、午後解散となった。

第25回日韓仏教文化交流光明寺大会

六月八〜十日、鎌倉の浄土宗大本山光明寺を主会場で、日韓仏教文化交流協議会主催・本会後援、第二十五回日韓仏教文化交流光明寺大会が開催された。大会には、日本・韓国両国より約三百名が参加した。

初めに両国の代表が参加しての平和祈願法要を厳修。船岡芳昭日韓仏教交流協議会事務総長が開会の辞を述べ、両国の婦人部代表による献灯献花が行われた。

続いて宮林昭彦日韓仏教交流協議



共同宣言を発表する船岡芳昭事務総長と全南亭事務総長

会会長、李泓坡・韓日仏教文化交流協議会理事長が代表して表白文を奉読し、両国の親善と世界平和を祈念した。次に、本会藤井日光会長の祝辞を壽山良光国際文化部長が代読した。

午後の基調講演では、「祈りと救い」をテーマに鷲見定信師（大正大学助教授）が「供養と救い」、韓国の韓普光教授（東国大学仏教大学院院長）が「祈願と救援」と題し講演された。

大会の共同宣言では、中東における異宗教間の戦争とテロが世界各地で飛び火する中、異なる価値観をも許容し拝み合う縁起世界の積尊の教えを広め、両国の関係強化とともに人種的偏見・宗教・信条の異なりがあるうと人をおとしめる行為があつてはならない。また、両国の第二次世界大戦の戦禍の犠牲になった韓国出身戦没者の韓国への遺骨奉還の推進について述べられた。

また翌日には、東京の祐天寺を訪問し日韓の戦没者追悼の慰霊法要が営まれた。

日本仏教鑽仰会 東京お盆まつり

七月五日、東京内幸町のイイノホールで日本仏教鑽仰会主催・本会後援、第六十二回東京お盆まつりが開催された。

式典では、片岡英信日本仏教鑽仰会理事が開会のことばを述べ、赤羽法善寺保育園園児による献灯献花の後、お盆の歌を斉唱。次に、中山静磨日本仏教鑽仰会理事長の挨拶の後、奈良慈徹本会社会部長、大谷博通東京都仏教連合会理事長が来賓の挨拶を行った。

休憩を挟んで時宗総本山遊行寺法主他阿真円上人の導師のもと一山の出仕でお盆の法要が営まれ、記念法話を長島尚道師（時宗学頭）が「一遍上人と御賦算（お札くばり）」と題し講演。

続いて献舞「日本舞踊」やデキシールランド・ジャズの演奏が行われた。約四百名の参加者で盛会であった。



挨拶する中山静磨理事長

日本在住南アメリカ諸国人 先亡者慰霊追悼法要

七月六日、曹洞宗宗務庁で「日本在住南アメリカ諸国人先亡者慰霊追悼法要」が厳修された。

現在、南米からの国内就労者数は約四〇万人以上があり、年間八百人以上の方々が日本国内で亡くなられている。曹洞宗では、南米開教百周年を契機に慰霊法要を営んだ。

また、八月にはペルー共和国リマ市で日本国内に在住していた南米出身者の先亡の方々への追悼慰霊法要を行う予定である。

残暑お見舞申し上げます

兵庫県仏教会

- | | | | |
|---|---|------|------|
| 会 | 長 | 雲井世雄 | |
| 副 | 会 | 長 | 大谷昭世 |
| 同 | | 足立有教 | |
| 同 | | 浜田諭稔 | |

神戸市兵庫区北逆瀬川町一―三九
能福寺内
〒652-0837 〇七八六五二―一七二五

第十四回同和推進担当者研修会

花岡事件をテーマに秋田で現地研修

六月十七・十八日、秋田県大館市の秋北ホテルを会場に、「一九四五年六月秋田県花岡鉱山の鹿島組事業所で、強制連行されて過酷な労働に従事していた中国人労働者が蜂起し、残酷に鎮圧された事件（広辞苑）」である「花岡事件」をテーマとして、第十四回同和推進担当者研修会が開催された。参加者は本会加盟団体より三十名であった。



日本不再戦友好碑前で説明を受ける参加者

十七日午後より、深澤信善同和委員会委員長の開会挨拶に続いて、奥

山昭五氏（花岡の地・日中不再戦友好碑をまもる会代表）の講演が、翌日のフィールドワークのための事前学習として行われた。

奥山氏は、「花岡事件」を狭義には、「一九四五年六月三十日（七月一日の説も有り）に起こった中山寮（収容所）の中国人の一斉蜂起に関するできごと」、広義には、「鹿島組花岡事業場へ連行された約千人の中国人たちに起こった約二十ヶ月間にわたる出来事の総体」と定義し、当時の中国人強制連行の背景と一斉蜂起に至る花岡事件の詳細、強制連行された中国人の劣悪な生活環境・酷使・虐待などの実態、戦後の事件に対する日本政府・企業・占領軍の対応、花岡事件殉難者の遺骨発掘と送還運動、日中不再戦友好碑の建立に至る経緯などについて、詳細な解説をされた。

講演終了後、「まもる会」の方々にも加わっていただき、参加者は三グループに分かれて分散会を開き、活発な意見交換を行った。分散会の

終了後には再度全員が集合し、全体会にて各分散会の報告者からまとめの報告を受けた。

夜には交流会が開催され、奥山氏をはじめとする「まもる会」の方々・参加者・事務局が参加し、懇親を深めた。

十八日朝、参加者は、バスにてフィールドワークに出発し、中山寮跡（滝の沢第二ダム）・日中不再戦友好碑・共栄館跡碑など「花岡事件」関連の各所を回りながら、「まもる会」の方々から解説をいただいた。また、中国人殉難者供養塔のある曹洞宗信正寺において、参加者全員により三帰依文唱和、焼香を行った。フィールドワークを終了し昼食後、バスで青森空港に移動し、空港にて解散した。

今回の研修会について、参加者からは、「花岡事件」についてはじめて知ることができよかった、奥山氏をはじめとする「まもる会」の方々の努力への敬意や、今後も継続して扱ってほしいとの声があった。

ルンビニー園マヤ堂修復事業
篤志支援者ご芳名

現在、本事業大詰めの作業である「マヤ堂遺跡考古学発掘調査最終報告書」の発刊等に鋭意努力しております。

長期に亘る難事業推進のため、事業資金が不足を来たしており誠に恐縮ですが皆さまに事業資金のご支援をお願い申し上げます。

・臨濟宗相国寺派相国寺様

金、七萬三千元

〈五月十一日～八月十日受付順〉

【篤志の振込先口座番号】

*郵便局〇〇一三〇一六一三七六〇〇

加入者名 財団法人全日本仏教会

※ルンビニー園復興協力金と明記下さい。

*銀行口座三井住友銀行浜松町支店

普通預金口座 七七〇三五八

口座名義財団法人 全日本仏教会

※振込手数料を差し引いてお振込下さい。

●本件に関するお問い合わせ

（財）全日本仏教会事務局国際文化部

電話〇三（三四三七）九二七五

第二十回参議院議員選挙 推薦結果報告

七月十一日に行われた第二十回参議院議員選挙では、五月二十七日の理事会で協議の結果、本会の推薦を必要とする立候補（予定者）者に対し、「本会の意義・目的や活動を理解し、支援・協力ができよう政治に取り組み」旨の誓約書の提出に加え、人物本意で推薦することを確認した。

今回の参議院議員選挙では、全国で合わせて三百二十名が立候補し、本会からは、二十七名を推薦した。その内、当選者は十八名（自由民主党九名、民主党九名）であった。

投票率は前回をわずかに上回る五六・三％、民主党が大幅に議席を伸ばし、獲得数は選挙区・比例区ともに一位となった。自由民主党は、改選前より一議席減の四十九議席、他の政党は低迷し、二大政党制の流れが見える構図となった。

今後、本会の推薦した参議院議員や昨年推薦の衆議院議員の方々と情報交換の場を持ち、本会の活動に協力を要請していく予定。

八月三日、本会は「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止の要請」を小泉純一郎首相宛に提出した。

首相及び閣僚の靖国神社公式参拝 中止の要請

本会は「靖国神社法案」、首相及び閣僚の「靖国神社公式参拝」に對して、過去二十六回にわたり、反対の意志表明と公式参拝中止の要請を行ってまいりました。

靖国神社は、特定の基準をもって合祀の対象とした戦没者を神霊として祀る神社であり、純然たる宗教施設であることが明白であります。したがって、一宗教団体である靖国神社に首相及び閣僚が公式参拝することは、どのような形式をとりましても、憲法に定める「宗教の自由」「政教分離の原則」に違反することは疑いの余地がありません。

最高裁判所は、靖国神社等への公金支出が、金額の多寡を問わず憲法違反に当たるという、明確な判断を示しております。

私たちは、戦後五十余年のあいだ日本国民が守り育ててきたこれらの憲法の規定こそが、今日の日本の平和と繁栄の礎となっていることを、改めて確認し伝えていきたいと思っております。

戦没者の追悼は、国家が特定の宗教に関わって行うべきものではなく、各ご遺族がそれぞれに真実と仰ぐ宗教によってなされるべきものであることは、当然のことです。

私たちは、首相が二〇〇一年八月十三日、一昨年四月二十一日、昨年一月十四日に続き、本年一月一日、内閣総理大臣として再び靖国神社を参拝されたことに、強い遺憾の意を表すと共に、今後首相及び閣僚が、靖国神社への公式参拝をなされないよう、強く要請いたします。

二〇〇四年八月二日

財団法人 全日本仏教会
理事長 里見達人

内閣総理大臣
小泉 純一郎 殿

緊急ファンドにご協力ください!

アフリカ・スーダンで 新たに糾争!

スーダン西部ダルフル地方で武装勢力による襲撃が続き、隣国チャドに脱出した12万人以上のスーダン難民が危機的状況にあります。UNHCRは危険な国境地帯から内陸部のキャンプに難民を移送し、空輸した水や食料、日用品、テントなどを支給しています。
この緊急援助活動に20億円以上が必要ですが、大幅に不足しているため、日本の皆様にご協力をお願いしています。

郵便振替口座: 00140-6-569575

加入者名: HCR協会
(通信欄に「緊急ファンド」とご記入ください。)

UFJ銀行 青山支店 普通 5251034
三井住友銀行 渋谷駅前支店 普通 3478195
口座名: エイチシーアールキョウカイ
(皆様のご住所等を別途ご連絡ください)



認定NPO法人
日本国連HCR協会

Tel.03-3499-2450 Fax.03-3499-2273
ホームページ <http://www.japanforunhcr.org>

(皆さまのご寄附は寄附金控除の対象になります。)

事務総局録事

七月(十一～三十一日)

十二日▼日宗連幹事会

二十一日▼事務総局局内会議

▼UNHCR(国連難民高等

弁務官事務所) 事務官来局

二十二日▼法律相談室

▼自由民主党来局

▼WCRP主催平和問題シン

ポジウム出席

▼局内会議

二十六日▼信教の自由と政教分離シン

ポジウム出席

二十七日▼改革推進委員会

▼仏教NGOネットワーク企

画委員会出席

二十八日▼同和委員会

二十九日▼「いま平和を求めて」討論

集会出席

▼ルンビニー冊子編集会議

▼滋賀県仏教会訪問

三十日▼日宗連理事会

▼全国仏教保育滋賀大会出席

八月(一～十日)

三日▼首相へ「首相及び閣僚の靖国神

社公式参拝中止の要請書」提出

四日▼比叡山「世界平和祈りの集い」出席

▼真宗大谷派禿信行東京教区教務

所長来局

五日▼宗教教育推進特別委員会研究部

会

六日▼事務総局局内会議

▼エイズ文化フォーラム出席

人事

就任

常務理事 浅井侃雄(真言宗豊山派)

税務委員 五辻信行(真宗大谷派)

同和委員 杉本了恵(真宗大谷派)

信教の自由に関する委員

西村真海(真言宗豊山派)

国際委員 青木慶光(真言宗豊山派)

ルンビニー委員 中川祐聖(真言宗豊山派)

退任

常務理事 大塚恵章(真言宗豊山派)

税務委員 館 寿人(真宗大谷派)

同和委員 橘 秀憲(真宗大谷派)

信教の自由に関する委員

鈴木道雄(真言宗豊山派)

国際委員 名取芳彦(真言宗豊山派)

ルンビニー委員 鴫 晃秀(真言宗豊山派)

仏教NGOネットワーク(BNN) 研修セミナー

「イラン地震報告会」

昨年末イラン南東部バム市を中心とする大地震がおこり、多くの死傷者がでましたのはご存じのことと思います。全日本仏教会は被災者救援の為、専用口座を開設し広く協力を呼びかけ皆さまの支援金をBNNに寄託いたしました。

今セミナーは、現地で子ども達への支援をコーディネートしたシャンティ国際ボランティア会(BNN会員)の関尚士さんを迎え報告会を開催いたします。

日時：9月14日(火) 午後2時～4時
会場：慈母会館(新宿区大京町31)

〈JR 総武線千駄ヶ谷・
信濃町駅から徒歩5分〉

参加費：BNN会員無料、非会員は500円
報告者：関尚士氏

※お申込は下記事務局へ郵送かFAXで
【お申込み・お問い合わせ】

仏教NGOネットワーク事務局
〒135-0024 東京都江東区清澄3-4-22
TEL/FAX 03(3820)7323
URL: <http://www.bnn.ne.jp/>

本会主催 教化セミナーのご案内

「いま、子どもたちがあぶない」

●急増する幼児・少年事件を通して

心の在り方を見つめる

昨今のこどもに関する悲惨な事件が毎日のように報道されています。事件に巻き込まれた子ども、あるいは事件を起こしてしまった子ども、そして家族の苦悩は計り知れないものであることでしょう。「いのち」の尊さをこどもたち、そして世の中に訴えて行かなくてはなりません。私たちは、今いのちの大切さを考え、具体的に何をしていかなければならないのでしょうか。

日時：平成16年10月29日(金)
9時30分～12時30分(9:00受付予定)

会場：ホテルパシフィック東京
(品川駅前高輪口正面)
〒108-8567 東京都港区高輪3-13-3
TEL 03-3445-6711

対象：一般・加盟団体関係者
申込み方法：FAX・ハガキで住所・氏名・人数をお書きの上、下記事務局までお申込下さい

【お申込み・お問い合わせ】

(財)全日本仏教会事務総局社会部
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内
TEL 03(3437)9275 FAX 03(3437)3260

集中豪雨災害に対する救援金のお願い



7月13日からの梅雨前線に伴う豪雨により新潟県、福島県の山間部の市町村で河川が決壊し、寺院の流失や床上浸水など死傷者が出る多大の被害をもたらしました。さらに18日からは、福井県嶺北地域でも床上浸水、家屋の倒壊、死傷者が出るなど広範な地域に及んでいます。

加盟団体の所属寺院の被害状況は、曹洞宗約40ヶ寺、浄土真宗本願寺派36ヶ寺、真宗大谷派7ヶ寺、日蓮宗8ヶ寺、天台宗9ヶ寺、真言宗智山派17ヶ寺、真言宗豊山派12ヶ寺、法華宗陣門流寺院等、100ヶ寺を超える被害が及んでいます。新潟県の日蓮宗・妙栄寺では本堂を含め全壊。真宗大谷派・光勝寺は庫裡の床上浸水、門徒に死者がでており、真言宗豊山派法華寺・宝光院では本堂の屋根を残し半壊。法華宗陣門流総本山本成寺も床上浸水。また、檀家・信徒の方々にも多大な被害をもたらしております。

今後の復旧には、ライフラインの整備

新潟・福島・福井各県で百ヶ寺を越す被害

備や住宅の仮設など様々な問題と時間費用を要す事と思われます。また猛暑の中、被災地の方々の生活は、如何ばかりと拝察いたします。一日も早く、平常の生活に戻れることをご祈念申し上げます。

本会と致しましては、7月23日に新潟県仏教会・福島県仏教会・福井県仏教会へお見舞い金として各三十万円をご送金させて頂きましたが、加盟団体並びに一般の皆さまには、今回の災害に遭われた各県の方々、各御寺院に対し、救援の一助として義捐金のご協力をお願い申し上げます。

義捐金受付期間 7月20日から10月15日まで
義捐金受入口座 郵便振替口座
口座名義 財団法人 全日本仏教会
口座番号 0013016137600
※通信欄に「義捐金」とご明記下さい。
●お問い合わせ
財団法人 全日本仏教会事務総局
TEL 03(3437)9275
FAX 03(3437)3260

- 【支援者一覧】
- ・金峯山修験本宗 ・臨済宗相国寺派
 - ・全日本仏教婦人連盟 ・黄檗宗
 - ・青森県仏教会 ・山梨県仏教会
 - ・真言三寶宗 ・静岡県仏教会
 - ・群馬県仏教連合会 ・岐阜県仏教会
 - ・天台眞盛宗総本山西教寺
 - ・徳島県仏教会 ・滋賀県仏教会
 - ・天台寺門宗 ・全日本仏教会職員会
- (八月十三日現在)
(計一、〇七〇、〇〇〇円)

●(財)仏教伝道協会設立40周年記念「講演と音楽の夕べ」開催

第38回仏教伝道文化賞受賞者記念として、受賞者である五木寛之氏(作家)と嶋野榮道師(臨済宗南禅寺派住職)両名の講演と斉藤暎美氏(エレクーン奏者)、趙国良氏(コンサートマスター)を迎え音楽の夕べを楽しむイベントです。

開催日：10月7日(木) 18:30開演
会場：ゆうほうと
(東京・五反田駅徒歩5分)
入場料：3000円
主催：(財)仏教伝道協会
後援：(財)全日本仏教会
お問い合わせ：仏教伝道協会 03(3455)5851

●鎌倉復興期のみほとけ 興福寺「国宝展」開催

2010年に創建1300年を迎える奈良・興福寺は現在に伝わる鎌倉復興期の諸尊や寺宝を紹介し、興福寺再興の歴史を検証する展覧会を開催します。

開催日：9月18日～11月3日
10:00～17:00 月曜日休館
会場：東京藝術大学大学美術館
東京都台東区上野公園12-8
観覧料：一般 1300円
高校・大学生 800円
中学生以下無料
主催：東京藝術大学
法相宗大本山興福寺他
お問い合わせ：ハローダイヤル 03(5777)8600



国宝 木造無著菩薩立像
運慶工房
1208(承元2)年～1212(建暦2)年
興福寺蔵

印度山日本寺・カレンダー募金

カレンダー募金は、印度山日本寺(インド)に併設される無料医療(光明施療院)と無料保育(菩提樹学園)の運営に当てられます。世界最古の仏像の一つといわれるカニシカ王のコイン、ガンダーラ様式の仏頭等、世界で最も美しい釈尊像の数々です。

2005年度カレンダー 1部 1800円
【申し込み先・問い合わせ】
(財)国際仏教興隆協会
東京都目黒区中目黒5-24-53
TEL 03(3711)7608

「釈迦の祈り」



サイズ：横29.7cm×縦42cm



本会ホームページに加盟団体行事をお載せします

●情報を随時募集中です！
<http://www.jbf.ne.jp>

当ホームページを加盟団体の情報提供の場としてご利用下さい。